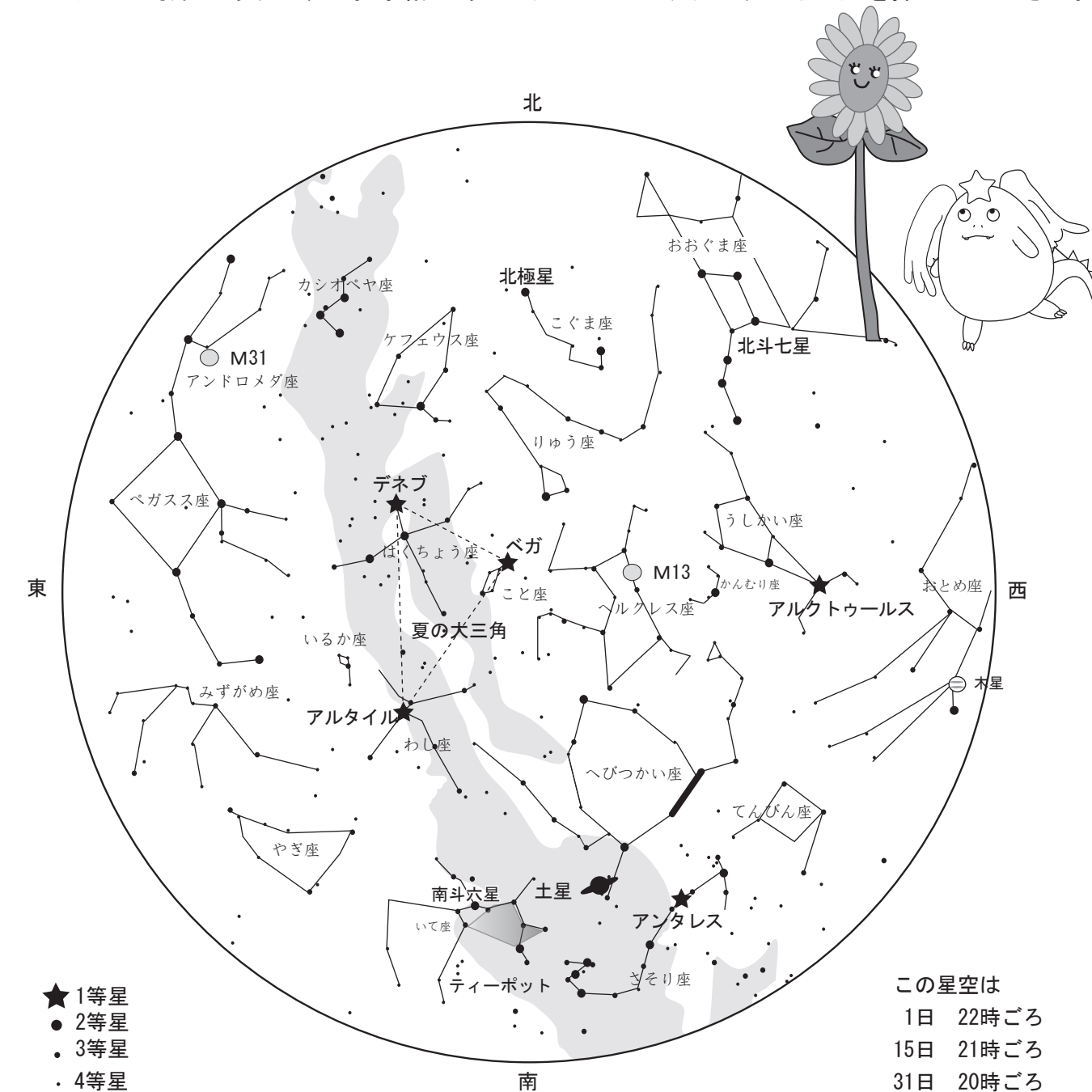




日没の時間が遅い夏。暗くなって星が見えてくる時間も20時過ぎごろからとなります。いっぱい遊んで、ご飯を食べて、涼しくなってくるこの時間から星空観察してみましょう。夏の大三角もちょうど天頂付近。天の川もゆうゆうと夜空をまたいでいます。織姫星と彦星はちゃんと対岸にありますよ。余裕があれば天の川から跳ねた、いるか座を探してください。



- ★ 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星

この星空は
1日 22時ごろ
15日 21時ごろ
31日 20時ごろ

今月のイベント

★スターウィーク（星空に親しむ週間）

日程：8月1日（火）～7日（水）

入館料：大人 500円 小学生 300円 幼児 100円

毎年8月1日から7日は「スター・ウィーク～星空に親しむ週間～」です。

スター・ウィークは、全国的に梅雨が明け天候も安定し、星空を気軽に眺めるのに適したこの時期に、星空にふれるきっかけを多くの人に提供するキャンペーンです。

「お月さま七変化」のキャッチコピーのもと、毎晩姿を変えていく月の姿を眺めて楽しんでみてください。

★土星・木星観望会

日程：夏休み期間中毎日（天候による）

太陽系の巨大ガス惑星、木星と土星が見頃です。春から初夏にかけて夜空を賑わせてきた木星が、そろそろ観望シーズンの終わりを迎える頃になりました。

木星観望はお早い時間がおすすです（＾＾）土星は毎年リングの傾きが変わり、今年はリングの傾きが大きく見えています。ぜひ望遠鏡でその姿を確認してみてください！



見ごろの天体

ベガ（こと座）… 七夕の織姫星。一等星。
M57（こと座）… 惑星状星雲。リング状にガスが広がって見えます。

アルビレオ（はくちょう座）… くちばしにあたる星。宮沢賢治は『銀河鉄道の夜』でサファイアとトパーズの星となぞらえています。

天文カレンダー

- 3日 月と土星が接近
- 7日 立秋（太陽黄経135°）
- 8日 ○ 満月 / 部分月食（2:22～4:19）
- 13日 ペルセウス座流星群が極大（04時）
- 15日 下弦の月
- 19日 細い月と金星が接近
- 22日 ● 新月 / 北アメリカで皆既日食
- 25日 細い月と木星が接近
- 28日 伝統的七夕（旧暦7月7日）
- 29日 上弦の月 / 月面Xが見える（18時）
- 30日 月と土星が接近

8月8日未明 部分月食

2年4ヶ月ぶりの月食が、8月8日の未明に日本で見られます。今回は、月のおよそ4分の1が欠ける部分月食が起こります。月食の経過時刻は全国で同じで、まず8日になったばかりの00時48分に月が地球の半影に入り、半影月食が始まります。2時22分には月は地球の本影に入り、3時21分が食の最大。その後月は元に戻り始め、5時53分には半影食が終わります。部分月食は、肉眼でも欠けているようすがわかります。高度が低めなので、南西から西の空が地平線までひらけたところでの観望がおすすめです！

8月13日未明 ペルセウス座流星群

ペルセウス座流星群は、1月のしぶんぎ座流星群、12月のふたご座流星群とともに、最も活発な流星群のひとつに数えられます。今年のペルセウス座流星群の極大日時は、8月13日午前4時と予想されています。満月すぎの月がうお座付近で夜空を照らしているため、暗めの流星が月明かりでかき消されてしまい、見える流星の数が減ってしまいがちですが、明るい流星が多いため、多少の月明かりは気にせず観望したいところです。